

○令和4年度ごみ・資源物組成調査結果(第1回)

1 目的

ごみの減量化・再資源化施策の推進にあたり、分別の状況を把握し、今後の施策の基礎資料とするため、ごみ・資源物の組成調査を実施する。また、各ごみの中でもどのようなごみの排出が多いのか確認するため、適正排出物の中でも構成品目の分類数を増やした。

2 概要

(1) 対象品目

燃やすごみ、プラスチック製容器包装、埋立ごみ

(2) 対象地区

小諸市における標準的なデータを得るため、次の地区を対象とする。

区分	
商店街地域	集合住宅団地
市街住宅地	農村地域

(3) 調査方法

各品目80袋(20袋×4地区)をサンプリングし、内容物を調査して分析する。また、同時にレジ袋質量調査も行う。

3 結果

詳細データは別紙「ごみ・資源物組成調査分析表」のとおり

(1) 燃やすごみ

- 資源物に分類されるものが、26.7% (令和元年度比2.2%減) を占めている。その内訳は、生ごみが11.0%と最も多く、次いで古紙類が8.4%、プラスチック製容器包装6.0%、その他1.3%と続いている。
- 令和元年度と比較し、適正排出が2.3%増加し、不適正排出もプラスチック製容器包装が2.5%増えたが、その他の品目については全体で減少している。
- 混入していた古紙類が全て資源物に分別された場合、前年度収集量で試算すると、年間焼却経費が約1,333万円節約でき、さらに売却による約637万円の収入が見込めるため、約1,970万円の節約効果を期待できる。また、現在の原油高騰や資源価格の高騰により今後さらに適正分別による費用対効果が大きくなると考えられる。

(2) プラスチック製容器包装

- 「適合」と判断される物は83.18%で令和元年の比1.9%減、「汚れプラ」が7.4%で前年度比1.0%減であった。「汚れプラ」の混入率は令和元年度まで増加してしたが、今回の調査で初めて減少した。しかし、菓子パンの包装・スーパーのトレーなどを軽くすすぐだけで「適合」になる物が多く含まれており、「汚れプラ」きれいにして排出する啓発の実施が必要である。また燃やすごみが3.3%増加していた。これはプラスチック製容器包装とプラスチック製品の分別が適正に行われていないことが原因と考えられる。

(3) 埋立ごみ

- 埋立ごみは、89.7%で令和元年度比2.7%増であった。内訳は、ガラス・陶器類が24.7%、金属類が15.8%、小型家電が15.6%、複合製品(金属とプラスチックで製造された物)が41.1%となっている。
- 令和3年3月からの、リネットジャパンを利用した小型家電のリサイクル収集を開始したため、今後の小型家電の排出量に注目する必要がある。また、中身の入ったガスマイターは年2回の集団回収の回収品目となったため排出量が減少すると思われる。

(4) レジ袋

- 今回の調査結果と前年度収集量をもとに試算すると、1年間にごみとして出されるレジ袋の量は、令和元年度と比較して半減している。レジ袋の有料化が大きく寄与していると考えられる。レジ袋有料化前の最低値であった平成27年度（574万枚）から比べると49万枚13.3%の減少となっている。今後もレジ袋の排出量が減っていくのか、横ばいになるのか推移を観察していきたい。

(5) 今後

- 令和4年度は10月にも第2回の組成調査を予定している。10月の調査結果を踏まえ、最終的な組成調査の結果を取り纏め市民に公表する。